

最上地域

④ 木に親しむ環境づくり

【森の楽器の会の会の取組み（県民提案型）】

最上町の「東法田の大アカマツ」は、推定樹齢600年、幹回り8.56メートルで日本一を誇り、県指定天然記念物に指定されておりましたが、枯死したことにより令和3年に伐採されました。森の楽器の会では、地元の人からも愛されていた「東法田の大アカマツ」を利用した手作り楽器ワークショップを開催し、子どもたちとハープなどの木製楽器を製作することで、木製楽器ならではの温もりを感じていただき、参加者の森林保全等に対する意識を高めています。また、製作した木製楽器を使って、各地で演奏披露を行うことで、地元木材をPRしています。



演奏披露活動

置賜地域

③ 森や自然とのふれあい活動

【里山森のようちえん研究会の取組み（県民提案型）】



子どもたちが森林にふれあう様子

当会は、令和2年度から山形県に暮らす子どもたちが、里山の森に関心を持ち、その有用性や楽しさを学び、体験することにより、将来、森との関わりについて考え行動できるようになるよう活動しています。また、森での様々な活動を通して、子どもを森に連れてくる親や幼児教育に携わる方たちへ、森の楽しさや自然教育の大切さを伝える取組みを行っています。

〈森での様々な活動と普及内容〉

- ・センス・オブ・ワンダーを育てる森の探検オリエンテーリング
- ・森の木々や四季折々の植物に触れ名前や役割を学ぶ
- ・自然の素材で創る（工作、お話、記憶）ことを楽しむ
- ・森での活動を通し作成した絵本、森の地図、かてものカードなど

を使って森の大切さや森への関心を広く伝える

庄内地域

① 豊かな森づくり活動

【酒田市の取組み（市町村里山再生アクションプラン）】

酒田市では、森林・自然環境学習の推進及び地域住民等との協働として、海岸林における森林ボランティア活動や小中高校の森林整備体験を支援しています。

令和5年6月24日及び9月23日には酒田市万里の松原で「酒田市松林整備ボランティア」を実施して、一般市民、森林ボランティア団体、児童、生徒、学生、企業等から計501名の参加をいただき、下刈りを行いました。また、11月11日に酒田市飯森山西で実施した「砂防林を育てよう」には、151名の参加をいただき、灌木類の除去やツル切りを行いました。

庄内砂丘のクロマツ林等の自然環境を自分たちの手で守り、次の世代にしっかりと引継ぐ取組みが酒田市全体に広がることを期待しています。



森林整備体験の様子

自然環境保全の対策について

森林・生物環境の異変を早期に察知し保全対策を検討するため、野生動植物の生息・生育調査を通して、自然環境の変化を継続的に監視しています。

また、保護された野生鳥獣の野生復帰にも取り組んでいます。

生物多様性戦略推進事業

県内の野生動植物の生育・生息の動向を把握するための調査、ブナ・ナラ豊凶調査、希少野生生物の調査

ブナ・ナラ豊凶調査



ガッサントリカボト



カオジロトシボ



クロブシ
ヒヨウタシボク

県内に生息する昆虫・植物

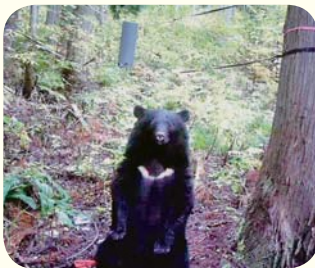


ニホンジカ

鳥獣管理推進事業

県内の大型野生鳥獣の生息状況を把握するため、ツキノワグマの生息状況調査、イノシシ、ニホンジカ等の分布拡大調査

自動撮影のカメラによる調査



ツキノワグマ



イノシシ

獣医師が対応したニホンザルやカモシカ

大型野生鳥獣等 野生復帰事業

ケガや病気などで救護や捕獲された、森林に生息する大型野生鳥獣を野生に復帰させるため、総合的な治療、訓練、生息地での放鳥獣などを獣医師が実施



企業の森づくり活動（やまがた絆の森）について

やまがた絆の森づくりってなに？

森林を通して、地域や環境のために貢献したいという企業や団体が、森林の所有者の方と協定を結んで、森づくり活動を行う取組みのことです。県がコーディネーターとなり、企業等と森林所有者をマッチングします。両者で活動地及び活動地の名称、期間、活動計画などを話し合って決め、その内容を明示した「やまがた絆の森協定」を結び、活動を行います。



株式会社でん六×小倉生産森林組合
協定締結式の様子

ニッサンの森【Asahi】

所在地：西村山郡朝日町大字白倉 743 番地 1 外 面積：4.6ha

協定者：山形日産自動車株式会社、日産プリンス山形販売株式会社、朝日町、山形県

活動内容 車両販売メーカーとして知られている山形日産自動車株式会社・日産プリンス山形販売株式会社は、社員の家族との時間や地域の森林を大切にするため、平成 29 年から朝日町において広葉樹林の整備を始めました。当初は草丈が高く、埋もれていた苗木や活動場所も、7 年間整備を続けることで、回数を重ねるたびに綺麗になり、苗木の成長した姿も見えるようになり感慨深いです。

今後も活動を続け、5 年後、10 年後、20 年後にはニッサンの森として立派な森林ができた実感できるよう森づくりを継続して参ります。そして森づくりを通して山形の環境をはじめとして社員、家族ひいては地域との絆をさらに深めるべく引き続き活動を続けて参ります。



集合写真



活動当初の状況 (H29)



今年の状況

森づくりサポート体制について

県では、県民参加の森づくりを推進するため、「公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構」と連携し、森づくり活動の現場を様々な面からサポートしています。

同法人は、樹木医、森林インストラクター、自然再生士、ビオトープ管理士等の資格を有する職員のほか、樹木、昆虫、木工など、さまざまな得意分野に精通した専門家 33 名を人材として登録しており、現場の要望に応じた指導者を派遣しています。

木を育てたい、子どもたちを森に連れていきたい、手入れしている森を素敵な場所にしたい・・・けれど、どうしたらいいの!？ 悩んだときは、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構に御相談ください。

電話番号 023-688-6633 FAX番号 023-688-6634 メールアドレス gcenter@jan.ne.jp

「やまがた木育」推進の取組みについて

県では、森や木に「触れる」「創る」「知る」という3つの活動を通して、森林の文化や木を活かす暮らしの大切さの理解を育む「やまがた木育」を推進しています。

今年度は、森林をはじめとする普段自然に触れる機会の少ない市街地にお住まいの方々を対象として、「やまがた木育プログラム体験会」を県内各地の図書館や子育て支援施設等計14か所で実施しました。

この体験会では、実際の木の葉や木材に触れながら、樹木の生きている樹としての役割、そして木材としての役割について、クイズを交えながら実施しました。



クイズの様子



どっちが重いかな？



森におい!!

それぞれの体験会で講師を担当していただいたのは、昨年度のやまがた木育人材養成講座【スキルアップ】修了者の皆さんで、森林組合職員であったり、幼稚園の先生であったり、森の案内人であったり、各々の背景に基づいた十人十色の伝え方で森林の大切さ・面白さ、やすりの使い方等を指導していました。回を重ねるごとに、講師の方々の工夫の幅の広がりを感じられました。

参加された方々は、本物の木の葉や木材に触れることで、触感やにおい等の特徴に興味津々で目を輝かせており、図書館で実施しているイベントにもかかわらず、お子さんから「森においがする!!」といった感想が聞けた際にはスタッフも笑顔がこぼれました。

また、9月には元岐阜県立森林文化アカデミー教授松井勅尚氏及び岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師吉田理恵氏を講師としてやまがた木育人材養成講座【スキルアップ】を開催し、スプーン作りを通してやまがた木育の伝え方、やすりの使い方等を2日間かけて学びました。

令和5年度は10名の方がやまがた木育人材養成講座【スキルアップ】を修了し、11月からは講座で学んだことを活かしながら早速体験会で講師として活躍していただきました。

これからも新たな担い手を増やしながらか、やまがた木育が県内に普及・浸透するよう努めて参ります。



手作りの見本を使って
やすりの違いを説明



ブナのしずくストラップ



森林組合職員ならではの小話
勉強になります!!